

巻頭言

しっかりした基本と
大胆なデザイン



学長 岡田 晃

早いものでもう4月。3月には学生を送り出し、4月には新生を迎えた。教官にせよ事務官にせよ一番大規模な人事異動がこの時期にあり、長年お世話になった方々の退職を惜しみ、代わりにフレッシュな若者たちのファイトあふれる仕事ぶりを喜ぶ。お決まりの如くのそうした年度替わりでありながら、やはり新年度なりの特徴もある。平成9年度は、既に自然科学研究科とがん研究所の組織の改革がなされ、それぞれに、大学院における総合的・学際的な教育を進展させ、がんの制圧に向けての研究を発展させるという大きな目的の素地が整った。あくまでも目的達成のための一過程であり、携わる者たちの今後の努力が問われると言っている。

大学は高等教育機関であり、なおかつ、このところ世が求めるものはより高度な教育、つまりは学部以上に大学院における専門的教育に期待を寄せる傾向が強い。しかし、考えれば基礎があつての応用である。一人の人間を成り立たせるものは、幼い頃からの経験と教えによるところが大きいのであって、それなしで人格や能力が整うものではない。学部における教育、特に基礎的・総合的教育をないがしろにしての大学院教育はあり得ないのである。

金沢大学は、創立してやがて50年の節目を迎える。大学は守らなければならない部分と、変わらなければならない部分とを持っている。流行に揺らがないしっかりした基本と、流行のタイミングを逃さない柔軟で大胆な変貌とが共に必要である。そのことを常に念頭に置いて、年度を重ねるたびにいい成長をしていかなければならない。年度当初恒例の概算要求にしても、そうした意識で取り組みたいものである。

今月の表紙写真

Cover Photo

卒業生・修了生計2,317人が巣立つ
「平成8年度学位記・修了証書授与式」を挙

(関連記事は3ページ)



岡田晃学長から学位記を授与される法学部総代の近岡幸恵さん
= 金沢市観光会館(金沢市下本多町)で (3月25日撮影)

“新”共同研究センター棟の完成を祝う
林田学術国際局長、森喜朗・馳浩議員も出席

(関連記事は2ページ)



新しいセンター棟の完成を記念してテープカットをする関係者
= 共同研究センター棟(角間 玄関前で (3月8日撮影)





新しい共同研究センター棟のお披露目に約250人集う 今後の研究協力推進を願って「完成記念式典・祝賀会」を開催



記念祝賀会での一コマ。(左から)森議員、岡田学長、山出金沢市長、馳議員、林田局長
= 3月8日午後、大学会館 角間 2階食堂で

このほど角間キャンパスに竣工した新しい共同研究センター棟の「完成記念式典・祝賀会」が3月8日に行われ、林田英樹文部省学術国際局長、森喜朗衆議院議員(元文部大臣)、馳浩参議院議員(文教委員)などの来賓や企業の代表者等合わせて約250人が完成を祝った。

また同日、式典に先立ち「産官学共同研究のこれからの推進方策について」をテーマとした記念シンポジウムも開催された。

記念式典関連の写真もう1枚を表紙にカラーで紹介



林田学術国際局長
= 3月8日午前、大学会館ホールで



森喜朗衆議院議員
= 同左



馳浩参議院議員
= 同左

前期・後期合わせて2,053人の学部合格者を発表

このほど行われた平成9年度学部入学者の選抜試験については、3月8日に前期日程の合格者1,636人が、同22日には後期日程の合格者417人が、それぞれ発表され、例年どおり大学会館 角間 前掲示板前に集まった多くの受験生たちが一喜一憂する姿が見られた。

平成9年度入試に関するデータは、3ページの表のようになっている。

合格発表関連の写真もう1枚を裏表紙にカラーで紹介



前期日程試験に合格し先輩たちから胴上げされる受験生
= 3月8日午前、大学会館前で





平成8年度学位記・修了証書授与式

「相互扶助を心とし、^{かつもく}刮目して相待つべし」と学長告辞



告辞をする岡田学長
=同左

3月25日、金沢市観光会館(金沢市下本多町)で、「平成8年度(第45回)学位記・修了証書授与式」が行われ、学部・大学院等合わせて2,317人の卒業生・修了生が本学を巣立った。

同式では、岡田晃学長が、ロシアの思想家ピョートル・クロボトキンの「相互扶助論」と、「三国志」の呉書とを引用し、「不安定な時代においてこそ、相互扶助の心を大切にし、目を見開いて、常に新しい見方で対応してほしい」と告辞した。

学長告辞を聞く卒業生・修了生
=3月25日午前、金沢市観光会館で

附属学校や医療短大でも卒業式



附属小学校卒業式
(3月13日撮影)



附属看護学校卒業式
(3月11日撮影)



附属幼稚園卒園式
(3月7日撮影)



医療短大卒業式で卒業生代表として答辞を述べる高田忠徳君(診療放射線技術学科)
=3月18日午前、医学部十全講堂(宝町)で

卒業式関連の写真もう3枚を表紙・裏表紙にカラーで紹介



後期日程試験の合格発表で受験番号を見つけて喜ぶ受験生
=3月22日午前、大学会館前で

前期合格者 1,636人		
区分	人数	(比率)
石川	409人	(25.0%, 前年27.6%)
富山	211人	(12.9%, 前年13.6%)
福井	133人	(8.1%, 前年 8.5%)
男子	1,081人	(66.1%, 前年64.4%)
女子	555人	(33.9%, 前年35.6%)
現役	1,260人	(77.0%, 前年75.1%)
浪人	376人	(23.0%, 前年24.9%)

後期合格者 417人		
区分	人数	(比率)
石川	103人	(24.7%, 前年26.6%)
富山	56人	(13.4%, 前年11.9%)
福井	33人	(7.9%, 前年 9.2%)
男子	244人	(58.5%, 前年68.9%)
女子	173人	(41.5%, 前年31.1%)
現役	349人	(83.7%, 前年66.6%)
浪人	68人	(16.3%, 前年33.4%)



報道機関代表者と意見を交換

「平成8年度学外有識者との懇談会(第3回)」を開催

3月18日、金沢市内のホテルを会場として、「平成8年度学外有識者との懇談会(第3回)」が開催された。今回は、「これからの大学に期待するもの 報道機関から見た国立大学と地域社会とのかわりについて」をテーマとして、地元の新聞社とテレビ局の代表者10名を招き、岡田晃学長以下部局長等が意見交換を行った。

報道機関側からは「特色のある大学になるべきだ」、「卒業生がもっと地域に残るようにできないか」などの意見が出された。



報道機関との意見交換を行った「学外有識者との懇談会」
= 3月18日午後、金沢シティモンドホテル(金沢市橋場町)で

「永年勤続者表彰並びに退職者感謝状授与式」

3月24日、本部棟で「永年勤続者表彰並びに退職者感謝状授与式」が挙行され、平成8年度末をもって退職する40人の教職員に対し岡田学長から表彰状(又は感謝状)が贈られた。また、同式終了後には、会場を移して懇談会が行われ、本学在職にまつわる思い出話などが楽しく懐かしく語られた。



永年勤続者として表彰状を受け取る教職員の代表(酒井誠一氏)
= 3月24日午後、事務局大会議室で

「学長と停年退職教員との懇談会」

3月28日、本部棟で「学長と停年退職教員との懇談会」が開催され、出席した7名の退職教員が岡田学長及び関係部局長と懇談した。同懇談会では、各退職教員が長年にわたる本学での勤務経験に関して、特に強く印象に残った出来事などを紹介し、それぞれが金沢大学への名残を惜しんだ。



懐かしい思い出話も飛び出した懇談会
= 3月28日昼、事務局特別会議室で





公開講座「コーヒーの科学」 を延べ782人が受講

3月22日、平成8年度の公開講座として最も多くの受講者(延べ782人)を集めた「コーヒーの科学」(大学教育開放センター主催)が全8回のコースを終了し、“皆勤”の受講者62人に賞状が贈られた。最終日となったこの日は、女優の真野響子さんも特別講師として演壇に立ち、「コーヒーと演ずること」を語った。



料理評論家見田盛夫氏による「コーヒーと料理」の講義
= 3月22日午後、大学教育開放センター(角間)講義室で

「コーヒーの科学」関連の写真もう1枚を
裏表紙にカラーで紹介

本学で「第1回金沢国際がんシンポジウム」

3月11日、医学部記念館(宝町)で「第1回金沢国際がんシンポジウム」が開催された。これは、本大学がん研究所と国際交流協定締結校との研究交流促進を図るもの。今回はトピックスとして「肝炎ウイルスと肝細胞がん」が選ばれ、米国、中国、韓国、モンゴル、日本の5か国から集まった約60人の研究者が研究発表などを行った。



研究発表を行う中西功夫教授(医学部)
= 3月11日午前、医学部記念館で

“遺伝子工学トレーニングコース”を実施

3月13日からの3日間、遺伝子実験施設(宝町)で「第7回遺伝子工学(高等技術)トレーニングコース」が開講され、学内外の学生・研究者計34名の受講生が新しい実験法などを学んだ。



DNA検出を行う受講生
= 3月14日午後、遺伝子実験施設コンピュータールームで

子供の患者8名が終業

附属病院で平成8年度の訪問教育を終える

医学部附属病院(宝町)で訪問教育を受けた小学生6名と中学生2名が3月24日に喜びの終業式を迎えた。この訪問教育は入院中の児童・生徒に学習の機会を提供するため、教員がベッドサイドで授業を行うもので、保護者からも好評を得ている。なお、平成9年度からは、病院の一室を教室とする院内学級へと引き継がれる。



終業式で先生の励ましの言葉を聞く児童・生徒
= 3月24日午後、医学部附属病院カンファレンスルームで

本学へのお客さま(3月)



文部省学術国際局の井上正幸国際企画課長(中央)
= 3月14日、事務局長室で



シェフィールド大学(イギリス)生物有機化学部の
ジョージ・ブラックバーン教授(左)
= 3月18日、学長室で



「宇宙&UFO国際会議」で 廣瀬幸雄教授(理)が司会進行

羽咋・宇宙&UFO国際会議

科学的な分析求める



「宇宙&UFO国際会議」(北國新聞社特設ページ)は、11日、羽咋市のホテルの第一宴会場で行われ、UFO研究の科学的分析の必要性を強調する一環、表列的な発表が、会場から受け付けられた。その旨を聞き取られた。

“UFOの町”として世界にも知られている石川県羽咋市^{はくい}で、3月21日から3日間、「宇宙&UFO国際会議」が開催された。この会議では、実際に宇宙人に誘拐されたというアメリカの科学者の証言や、宇宙人が人間の体内に埋め込んだとされるチップの公開などがあり、話題を呼んだ。なお、同会議では、本学の廣瀬幸雄教授(理学部)がパネルディスカッションの司会進行を務めた。

国際会議の様子を伝える北國新聞(3月22日朝刊、写真左が廣瀬教授)

スポーツ成績優秀者を 学校表彰



3月18日、スポーツ成績が優秀な学生に対する学長表彰が行われ、教育学研究科1年の古章子さん(トランポリンの世界大会などで優勝)と教育学部4年の吉田香織さん(陸上女子100mで日本記録を樹立など)の功績を称えて、岡田晃学長から表彰状が手渡された。その後、指導教官を交えて、このスポーツを始めたきっかけや練習の様子などが楽しく語られた。

学長表彰を受けた古章子さん(右)と吉田香織さん
=3月18日午後、学長室で



国際交流協定締結大学(その5)

ペンシルバニア大学 (アメリカ合衆国)

〔 1956.1.20 協定締結
1997.4 協定書成文化(の予定) 〕

ペンシルバニア大学は、1740年の創立以来250余年の歴史を誇る大学で、アメリカ合衆国屈指の名門校として、いわゆる“アイビーリーグ”に名を連ねている。

教員は約2,000人、学生は15学部で計22,000人を超える。キャンパスとしては、ペンシルバニア州のウエストフィラデルフィアに約260エーカー(約105ha)の敷地を有し、考古学・人類学関係のすばらしいコレクションを所蔵することで有名な附属博物館の建物もある。

(写真は最近同大学から送付されたもの)



政治家、科学者としても有名な同大学創設者ベンジャミン・フランクリンの像(キャンパス内)





新任部局長の紹介

平成9年4月、以下の方々が新しい部局長等に就任した。(敬称・略)

顔写真横の記載は、上から氏名・生年月日・任期・所属の順

工学部長  はやし ゆうじろう 林 勇二郎 昭17.1.17 9.4.1～11.3.31 エネルギー・自然講座	社会環境科学研究科長  ふかや まつお 深谷 松男 昭8.5.19 9.4.1～11.3.31 法学部・民法講座	自然科学研究科長  はなおか みよし 花岡 美代次 昭12.2.5 9.4.1～11.3.31 薬学部・医薬品化学講座
がん研究所長  まい まさよし 磨伊 正義 昭13.11.23 9.4.1～11.3.31 外科部	大学教育開放センター長  きよた あきお 清田 明夫 昭12.6.27 9.4.1～11.3.31 法学部・民法講座	医療技術短期大学部部长  あんどう じゅん 安東 醇 昭11.1.31 9.4.1～11.3.31 医学部・医用放射線科学講座

このほかに、アイソトープ総合センター長に森厚文(任期:9.4.1～11.3.31)、遺伝子実験施設長に山口和男(任期:9.4.1～11.3.31)、共同研究センター長に安井武司(任期:9.4.1～10.3.31)、留学生センター長に廣瀬幸雄(任期:9.4.1～11.3.31)の各氏が再任されました。

大学教育・事務の近代化

SCS

(スペース・コラボレーション・システム)

平成7・8年度予算で全国の大学間に衛星通信を利用したネットワークが構築され、マルチメディア社会に対応できる高等教育システムが整備されつつあるが、本学でも総合教育棟 角間 5階に関連機器が配置され、今後の授業や研究発表での活用が期待される。お問い合わせは学生課教務係まで。



角間キャンパス内に設置されたSCS用の大型パラボラアンテナ

編集後記

春4月。本学も10日の入学式を終えて新年度のスタートを切った。本紙もようやく「創刊1周年」。暖かく応援していただく読者の皆さんと、それなりに優秀な(?)スタッフに恵まれて、めでたく2年目を迎えることができた。

この間、編集会議の作業もいい意味でパターン化してきて、おおむね 前号の批評・反省、今号の記事選択・割付け、に約2時間、印刷屋さん送りの原稿完成に約2時間、グラ刷り校正に約2時間の計6時間でひと月が回って行くようになった。(ただしこれ以外に、スタッフの日夜を問わぬ地道な取材、原稿作り作業などが隠れているが・・・)

二つのマルチメディア関連整備が進む

E-mail

(電子メール)

事務連絡の迅速化やペーパーレス化を図るため、本学でも電子メールが試行で使われることとなった。既に学内各部署に計12台のパソコンが配置され、4月1日から一部の会議の開催通知や議題の連絡に利用が開始された。今後、数回の事務連絡会を開いて、利用を推進していくこととなっている。お問い合わせは庶務部総務係まで。



パソコン操作を学んだ電子メール関係の研修会

心配なのはやはりマンネリ化である。記事の選択、写真の撮り方などどれ一つをとって見ても、限られたスタッフが限られた時間で処理するために、どうしてもその傾向が出やすくなる。が、幸い「月刊」であるが故に、新しい試みをすぐに実施に移せる良さもある。十分に心していきたい。

お陰様で2月からは「金沢大学ホームページ」にも転載されて、おおげさに言えば全世界に“配信”されるようになった。それを励みと緊張感にして、一部入れ替わった新メンバーで(担当係の名称も「研究協力・広報係」となりました。)、新年度も「魅力ある広報紙づくり」に取り組んでいきたいと考える。(西村)



このページには、カラーで紹介するのにふさわしい写真を集めています。



「コーヒーと演ずること」の特別講義を終え記念写真に収まる女優の真野響子さん(前列中央)
= 3月22日午後、大学教育開放センター(角間 前)
(関連記事は5ページ)

2大天体ショーを写真撮影

3月に見られた部分日食とヘール・ボップ彗星を本学非常勤講師の春木俊一氏(小松市立芦城中学校教諭)が自宅の望遠鏡で撮影した写真が本紙あてに届けられた。



日本では最大約7割が欠けた部分日食
= 3月9日10時05分、小松市月津町で



青白い尾を引くヘール・ボップ彗星
= 3月27日19時58分、同左



卒業生代表として答辞を述べる蔵綾子さん(薬学部)
= 3月25日午前、金沢市観光会館(金沢市下本多町)で
(関連記事は3ページ)



「学位記・修了証書授与式」を終えて談笑する卒業生たち
= 同左



後期日程試験の合格を確認しテレビ局の取材を受ける受験生
= 3月22日午前、大学会館(角間 前)で(関連記事は2・3ページ)

外国人留学生が実地見学旅行

3月12日からの4日間、学生部の主催により外国人留学生を対象とした“実地見学旅行”が行われ、留学生と教職員合わせて49人が九州(長崎県、福岡県)を訪れて見聞を広めた。



教職員とも気軽に話ができる機会となった実地見学旅行
= 3月14日昼、ハウステンボス(長崎県佐世保市)で

平成9年4月18日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-11 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 0762-64-5019
FAX 0762-34-4010

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail)= general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

